

田中義麿関係資料を大学文書館で受贈

11月13日（火）、大学文書館では、田中義麿博士の旧蔵資料を、辛島由美子氏より新たに1箱受贈しました。辛島氏からは、昨年9月13日及び19日にも4箱ご寄贈いただいております。大学文書館では目録作成・保存袋収納・デジタル化等の整理を進めています。

田中義麿（1884-1972）は、1884（明治17）年長野県に生まれ、松本中学校を卒業後、1903年札幌農学校予修科に入学、1905年には本科に進学しました。本科では八田三郎・須田金之助両教授に師事し、動物学・養蚕学を専攻し、絹糸腺の形態について論文をまとめ、1909年に卒業しました。卒業後

は、母校で助手（1909～11年）、助教授（1911～21年）を務め、1913（大正2）年には日本で初めて独立の科目として「遺伝学」の講義を行いました。その後、欧米留学（1919～22年）を経て、新設間もない九州帝国大学農学部に出向、養蚕学講座担任として後進を育成し、同大学を退職後は国立遺伝学研究所（1949～56年）に籍を置き、蚕の遺伝学的研究の礎を築きました。

辛島氏からご寄贈いただいた資料には、中学生の頃から記された日記、写真、「遺伝学」受講生のレポート（1910年代）、研究講演メモ・原稿、蚕図・動物学関連スケッチ、新聞記事スク

ラップ、辞令類、学位記・勲記等の証書などです。写真は、各時期（長野、



松本中学校入学記念（1897年）

札幌、海外留学、九州帝国大学、国立遺伝学研究所)の肖像・集合写真が、裏書きも詳細に残っています。寮歌「都ぞ弥生」の作詞をした学生(横山芳介)や、桑園博士村の田中邸の写真など、本学の歴史を彩る写真も多く含まれております。

大学文書館では、田中義磨助教授の講義「遺伝学」を記録した学生ノート(樋口櫻五受講)も所蔵しており、今後、受贈した資料と合わせて、企画展示や資料公開等を通じて、紹介してまいります。

(大学文書館)



札幌農学校本科2年生(1906年)



中央講堂前にて(1919年)



桑園博士村の田中邸(1913年頃)



養蚕学教室の人々(1918年)



九州帝国大学にて(1937年)